

## 2024. 11. 28 遊びだから面白がってできること

11月、遊びだから面白がってできるんだと思う場面いくつか出会いました。

一つ目は、ある晴れた日の砂場でのことです。

砂場では、年中のAちゃんとBちゃんが、「手を洗ってるの」と何度も砂を両手で挟んで、ごしごしと洗っています。二人の手のひらは、まっ茶色で、それをまるで「いいでしょう！」というかのように私に見せてきます。「先生も一緒にしよう」と誘われて一緒にすることに。2回ほど砂で手を洗い終わって手のひらを見てみると、まだ、薄茶色です。どうやら二人はかなり長い間、砂で手を洗っていたようです。私が、「砂の国では、AちゃんやBちゃんみたいに茶色くなればなるほど、きれいな手ってことだね」と話すと、二人とも「そうそう」と自慢げです。私の手のひらを見て、「もっと洗わないと」と言ってきたり、「まだ、ここが、茶色くないよ（手のひらの中心のしわのあたり）」と、指さして教えてくれたりします。面白そうに思ったのか、近くにいたCちゃん、Dちゃんが寄ってきて、砂で手を洗い始めます。Cちゃんは、ちゃんと茶色になっていっているか何度も確かめて手を洗っていきます。ずっと砂場で様子を見ているE君に、Aちゃんたちが「Eくんも、一緒に手、洗おう」と誘いますが、Eくんは、砂で手を洗いたいとは思っていないようです。片方の手の指に絆創膏を貼っているので、汚したくないのかもしれませんが。私が、「Eくんの（砂のついていない）手は、砂の国では、よごれてるってことだね」話かけると、D君がくすっと笑いました。しばらくすると、Cちゃんが、私に、袖が手の方に落ちてきているので「上げて」と言ってきました。私の手は、『きれいな』まっ茶色になっていたのでも、Cちゃんの袖を上げてあげるのは難しく、Eくんは、「Cちゃんの袖を上げてあげてくれるかな」とお願いしてみました。すると、Eくんは、さっとCちゃんの背中に回って袖を上げてくれました。「E君の手がまっ茶色になっていなくて『きたない』おかげで、Cちゃんの袖を上げてもらえて助かったなあ」と言うと、E君は、にこっと笑いました。

二つ目は、年中保育室でのことです。

数人の女の子が、病院ごっこをしていました。色帽子にビニールテープで作った十字架を貼って、お医者さんや看護師さんになっています。私が保育室に入ると、すぐに十字架を帽子に貼った病院の人がそばに来て、患者さんとして病院のベッド（椅子で作った）に案内されて、1本注射をされ、苦い薬が渡されました。私は「注射は痛くて嫌だな」と抵抗してみたのですが、やはり病院は注射をしないとだめなようです。しばらくすると、一人の子が、「十字架が増えれば増えるほど、いじわるになる」と言って、色帽子に何個もビニールテープで作った十字架を増やしていました。すると「私も、私も」と、他の子も色帽子に十字架を増やしていきます。そのいじわる度合いが増した病院のちびっこ先生たちは、大人の私を相手に、たくさん注射をしてきました。

三つ目は、年中保育室と遊戯室の間の外の広場でのことです。

年中のFちゃんとGくんが二人で広場の端のマットをお風呂に見立てて遊んでいました。私は、年少のHくんと園舎探検中で、たまたま色紙とはさみを持ってそこに通りかかったので、二人に「シャワーいりますか」と聞くと、「ほしい」とのこと。持っていた色紙の中から私が水色を選び、縦にたくさんの切り込みを入れて渡しました。するとFちゃんが、「赤のがほしい」と言いました。水色のは温かいお湯が出るシャワーでないからとのこと。なるほど、と思い、私が持っていた色紙の中から、Fちゃんは赤色を探しましたが、赤色の色紙はありません。Fちゃんが「ピンクでいい」と言ったので、ピンクでのシャワーを作りました。ピンクのシャワーができると、今度はGくんが、「黄色で作って」と言ってきました。「何のシャワーなの」と聞くと、「おしりだけ洗えるシャワー」とのこと。FちゃんとHくんと私は大笑い。Gくんの要望で、次に緑色のシャワーを作ると、Gくんが「カエルが出てくるシャワー」と言い、その次に選んだ薄紫色で作ったシャワーは、「おならの匂いがするシャワー」だと言います。みんなで大爆笑でした。

生活の中では、「きれいなこと」「優しいこと」が良いこととされることが多いですが、遊びの中ではそれを逆にすることができ、「汚れていることやきたくないこと」「いじわるなこと」が遊びの面白さを生むことにもなります。また、子供は、そういうことを体験しながら、生活の中で良いとされていることについても、考えていけるのかもしれない。子供と一緒に、遊びだからの面白い世界を楽しむことを大切にしたいです。

